

医療行為にかかわる分類の国際比較とその改善や利用価値の向上に資する研究

研究代表者 川瀬 弘一 聖マリアンナ医科大学医学部教授

研究要旨：WHO は国際統計分類（WHO-FIC）の中心分類として、国際疾病分類（ICD）と国際生活機能分類（ICF）、医療行為の国際分類（ICHI）を設けている。ICHI は現在開発中であるが、WHO によって承認されると国際統計報告、診療報酬体系等を含め、幅広く影響を及ぼす可能性があり、ICHI 開発の情報収集・分析、国内意見の集約、ICHI 開発に対する体制作りが重要である。外保連手術試案と ICHI の分類コードは構造的に類似しており、コードの基本構造である操作対象部位と Target、基本操作と Action、手術部位へのアプローチ方法と Means のマッチングをおこなった。ICHI Target の身体部位から外保連コードの操作対象部位への対応率は 80%であった。ICHI Action の治療に係るコードから外保連コードの基本操作への対応率は 48%であった。また 7 桁コードにおける対応では、Interventions on the Digestive System（消化器系領域）において ICHI コードに対応できる外保連コードは 75%であった。Interventions on the Haematopoietic and Lymphatic System（血液リンパ系領域）において ICHI コードに対応できる外保連コードは 67%であった。

研究分担者

岩中 督・埼玉県立小児医療センター
病院長

波多野賢二・国立精神・神経医療研究センター 室長

高橋長裕・公益財団法人ちば県民保健予防
財団総合健診センター 顧問

荒井康夫・北里大学病院 課長

発に対して提案するための体制作りを進めていくことが国内対応・国際貢献の両面から重要である。

研究代表者は ICHI 開発のための戦略的かつ技術的な情報を WHO に提供する ICHI Task Force に参画しており、ICHI 1 版の作成に向けて現在 ICHI 2015 1 版のレビューを行っている。

医科診療報酬点数表の外科手術等の評価にも用いられている外保連手術試案の分類コード（以下、外保連コード）は、ICHI における分類コード（以下、ICHI コード）と類似している。外保連手術試案と ICHI との整合性について具体的な対応表や分析結果を示すことで、我が国の知見を反映した ICHI 開発を行うことが可能となり、ICHI 承認後の円滑な国内対応が可能となることが期待できる。

A. 研究目的

WHO は国際統計分類（WHO-FIC）の中心分類として、国際疾病分類（ICD）と国際生活機能分類（ICF）、医療行為の国際分類（ICHI）を設けている。ICD、ICF は WHO によって承認され各国に使用の勧告がなされているが、ICHI については現在開発中である。ICHI が WHO によって承認されると、国際統計報告、診療報酬体系等を含め、幅広く影響を及ぼす可能性があり、我が国として ICHI 開発の情報収集・分析、国内意見の集約、ICHI 開

B. 研究方法

ICHI は 2015 版を、外保連手術試案は第 8.3 版（外保連試案 2016 年に掲載）を用いて比較対象とした。外保連コードが操作対象部位（3 桁）、基本操作（2 桁）、手術部位へのアプローチ方法（1 桁）、アプローチ補助器械（1 桁）の 4 つの基本構造、合計 7 桁コードからなるのに対して、ICHI コードは、Target（3 桁）、Action（2 桁）、Means（2 桁）の 3 つの基本構造、合計 7 桁コードからなっている（表 1）

表 1：基本構造のコード比較

外保連手術試案8.3版 外保連コード	ICHI 2015α版 ICHI コード
操作対象部位(3桁)	Target(3桁)
基本操作(2桁)	Action(2桁)
手術部位へのアプローチ 方法(1桁)	Means(2桁)
アプローチ補助器械 (1桁)	

外保連コードと ICHI コードについて 構成する基本構造の対応表作成、7 桁コードの比較と対応表作成、コード間の違いについて専門家によるレビューの実施、を行った。なお の 7 桁コードに比較については、2016 年 12 月 13 日の ICHI Task Force 遠隔会議で、研究代表者が担当する領域が「Interventions on the Digestive System（消化器系領域）」と「Interventions on the Haematopoietic and Lymphatic System（血液リンパ系領域）」に決められたため、研究計画では 1 年目に整形外科・消化器系領域の比較を行う予定であったが、整形領域を次年度とし、血液リンパ系領域を本年度に行うように変更した。

7 桁コードの比較は、ICHI コードの Target、Action を、対応表を用いて外保連コードの

操作対象部位、基本操作に変換し、対応件数とその比率を求めた。

C. 研究結果

外保連コードの操作対象部位 1,046 項目中 ICHI コードの Target に対応付けられた項目は 332 (32%) であった。一方 ICHI Target 633 項目中、操作対象部位に対応付けられた項目は 251 (40%) であった。ICHI Target には身体部位の他に医療行為の対象として身体機能・活動・環境・行動が含まれ、身体部位 320 項目のみに限れば、操作対象部位との対応率は 80% であった。

外保連コードの基本操作は 66 項目中、ICHI コードの Action に対応付けられた項目は 49 (74%) であった。ICHI コードの Action は 130 項目であるが、治療に係るコードの他に診断・マネジメント・予防も含まれており、治療に係るコード 77 項目に限れば、基本操作との対応率は 48% であった。

外保連コードの手術部位へのアプローチ方法は 6 項目に分けられているのに対して、ICHI コードの Means は 54 項目であるが、このうち Approach に係わるコードは 12 項目で、これ以外に Technique に係わるコード 15 項目、Method に係わるコード 19 項目、Sample に係わるコード 7 項目、分類不能 1 項目も含まれている。外保連コードの「0 Open surgery」と ICHI コードの「AA Open approach」は 1 対 1 対応だが、外保連コードの「1 経皮的」が ICHI コードでは 5 件に細分化されている。

ICHI における Interventions on the Digestive System（消化器系領域）は 660 件の ICHI コードがある。これに対応できる外保連コードは 495 件 (75%) であった。Interventions on the Digestive System は、6 つの Target

Groupに分けられ、各グループの対応件数、対応比率は表2のとおりであった。

表2：ICHIコード（消化器系領域）の外保連コードへの対応件数と比率

Target Group	Target Group Title	ICHIコード件数	外保連コードへの対応件数	外保連コードへの対応比率
KA	Mouth and pharynx	151	132	87%
KB	Gastrointestinal tract	248	199	80%
KC	Hepatic and biliary structures	151	125	83%
KM	Peritoneum	46	28	61%
KT	Functions of digestive system	41	0	0%
KZ	Digestive System, unspecified	23	11	48%
合計		660	495	75%

ICHIにおけるInterventions on the Haematopoietic and Lymphatic System(血液リンパ系領域)は145件のICHIコードがある。これに対応できる外保連コードは97件(67%)であった。Interventions on the Haematopoietic and Lymphatic Systemは、8つのTarget Groupに分けられ、各グループの対応件数、対応比率は表3のとおりであった。

表3：ICHIコード（血液リンパ系領域）の外保連コードへの対応件数と比率

Target Group	Target Group Title	ICHIコード件数	外保連コードへの対応件数	外保連コードへの対応比率
DA	Tonsil, Adenoid	19	17	89%
DB	Thymus	9	8	89%
DF	Lymphatic system	64	55	86%
DG	Bone marrow	6	3	50%
DI	Blood	6	1	17%
DJ	Spleen	15	13	87%
DT	Functions of haematopoietic and reticuloendothelial system	25	0	0%
DZ	Haematopoietic and reticuloendothelial system, unspecified	1	0	0%
合計		145	97	67%

D. 考察

外保連コードの操作対象部位をICHIコードのTargetに対応付けが可能である割合は32%と低い。これは外保連コードの操作対象部位がより精緻化した分類であることが理由である。一方ICHI Targetの身体部位に限れば、外保連コードの操作対象部位との対応率は80%であり、ICHIコードを外保連コードに対応する際に、比較的高い割合で対応が可能である。

外保連コードの基本操作をICHIコードのActionに対応付けが可能である割合は74%と高いが、ICHIコードのActionを外保連コードの基本操作に対応付けが可能である割合は治療に係るコード77項目に限っても48%と低い。これはActionの治療に係るコードには、手術以外の項目、たとえば栄養や薬剤投与、輸液、麻酔、教育、カウンセリング、精神療法などが含まれているためである。現在外保連手術委員会では外保連手術コードの基本操作についてICHIコードのActionの考え方をとりいれ、見直しを行っている。新基本操作(案)は66項目から23項目に変更、全手術に新基本操作(案)を振り分け、新基本操作(案)が妥当かの確認中である。

7桁コードにおける対応ではInterventions on the Digestive System(消化器系領域)においてICHIコードから外保連コードへの対応が可能であった割合は67%であった。口腔と咽頭が87%、消化管が80%、肝胆道が83%と高い対応比率であったが、100%に近づかない理由は、ICHI Actionには診断やマネージメント、予防の項目が含まれており、これに対応するコードが外保連手術試案にないためである。またこれら

の項目のいくつかは外保連処置試案や生体検査試案、麻酔試案に掲載されており、今後は他の外保連試案にまで広げて検討したいと考えている。消化器系の機能は 0%であったが、これは外保連試案には臓器の機能に関する医療行為の項目はなく、どのように扱っていくかも今後の課題である。

Interventions on the Haematopoietic and Lymphatic System (血液リンパ系領域)では ICHI コードから外保連コードへの対応が可能であった割合は 67%であった。扁桃腺、アデノイドが 89%、胸腺が 89%、リンパ系が 86%、脾臓が 87%と高い対応率であった。一方骨髄が 50%、血液が 17%と低いが、これに対応するコードは外保連手術試案でなく生体検査試案にあるためである。こちらも他の外保連試案にまで広げて検討したいと考えている。

E. 結論

外保連手術試案と ICHI の分類コードは構造的に類似しており、コードの基本構造のマッチングでは、ICHI Target の身体部位から外保連コードの操作対象部位への対応率は 80%と高かったが、ICHI Action の治療に係るコードから外保連コードの基本操作への対応率は 48%と低かった。

また 7 桁コードにおける対応では、Interventions on the Digestive System (消化器系領域)において ICHI コードに対応できる外保連コードは 75%であったが、Interventions on the Haematopoietic and Lymphatic System (血液リンパ系領域)では ICHI コードに対応できる外保連コードは 67%であった。

対応率が 100%に近づかない理由は、ICHI の Action には診断やマネージメント、

予防の項目が含まれており、これに対応するコードが外保連手術試案にないためである。今後は他の外保連試案にまで広げて検討したいと考えている。

F. 健康危険情報

特記事項なし。

G. 研究発表

現在までのところ予定されていない。

H. 知的財産権の出願・登録状況

特記事項なし